

体験の場としての村の経済と村のエコロジー

ウテ・ラバンド(ドイツ)

エコミュージアム(ヴェザーディメール地域)

エコノミー

エコロジー

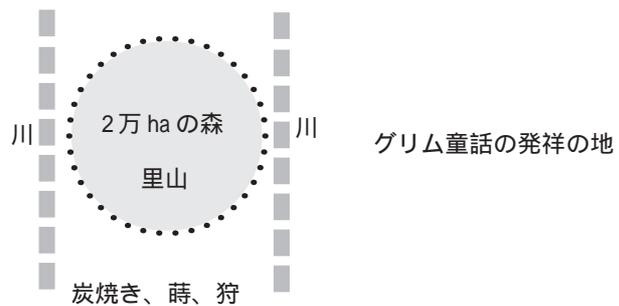
1人間

2どう働くか

3自然

3つの関係をどう組み合わせるか

地域のアイデンティティーをつくる



地域の素材を使って

建築をつくる(昔の職人がいないのでスペインかやポルトガルから連れて来て教育)

伝統の職人芸の復活

ガラス工芸 エネルギーが必要(森の木を使う)

.....

生活を見せる	分散させた形で
営みを見せる	地域全体が博物館である

.....

1993年~地域計画事務所(2名)

地域の人たちがネガティブに見ていたがポジティブになった。

役割としては観光に訪れた人たちを案内する。

地域の人たちが自分にかかわっているものについてプロジェクトとして取り扱う。

新聞、ラジオ、テレビ等で発表

人々のネットワークが大切である。

役割分担を行う

地域の人たちがやりたいことを持ってくる それを彼女達がどうしたら良いか考えてアイデアを出す

行政から降りてきたものではない

1997年~ 雑誌を発行してそれを販売して生活の一部、観光に使ったりする。

1998年~ 冊子 地域の料理
地域の行事その他掲載する

朝日の出る前に小鳥を見ようの企画に150名参加

予想を越える参加があった

他と共に行う、協力するネットワークを図る。

菜の花の油(エンジンオイル)79円/ℓ 15~16km/ℓ

地域の産業として成り立つ。